

目 次

はじめに

第 I 部 自 由

01	ドーピングは禁止すべきか？	2
1	ドーピングをめぐる現状	2
2	パターンナリズムとフェアプレイ	6
3	スポーツの目的からの議論、そして国家の役割についての問題	9
4	私はこう考える	14
02	自分の臓器を売ることは許されるべきか？	19
1	はじめに：そして魔神現る	19
2	なぜ移植患者のために臓器を提供しなくてよいのか	19
3	所有権があることの意義	21
4	自己所有権は正当化できるか	25
5	臓器売買を考える	26
6	自己所有権の限界を考える	32
7	むすびに：魔神からの問いかけ	35
03	犯罪者を薬物で改善してよいか？	40
1	はじめに	40
2	刑罰の条件	42
3	自由刑	44
4	化学的去勢	49
5	おわりに	55
04	ダフ屋を規制すべきか？	57
1	「ダフ屋を規制する」とはどういうことか？	57

2	なぜダフ屋を規制すべきなのか？	58
3	なぜダフ屋を規制すべきではないのか？	61
4	可謬主義的市場論とは何か？	68
05	チンパンジーは監禁されない権利を持つか？	74
1	はじめに	74
2	2つの視角：認識能力と法的権利の付与	77
3	動物の権利と動物の福祉	79
4	動物保護の法制度	82
5	再びチンパンジーへの法的権利の付与問題を考える	87
6	おわりに：チンパンジーは監禁されない権利を持つか	92

第Ⅱ部 平 等

06	女性専用車両は男性差別か？	96
1	はじめに	96
2	法律家の語り方：差別を語る前に	98
3	差別はなぜ許されるのか／許されないのか？	100
4	女性専用車両（男性排除車両）は男性差別か？	108
5	結びに代えて	113
07	同性間の婚姻を法的に認めるべきか？	117
1	はじめに	117
2	単純な対立図式とその限界	119
3	婚姻とは何か？	121
4	国家が婚姻について法的に制度化するのはなぜか？	122
5	国家による婚姻の法的制度化はそもそも必要か？	123
6	「婚姻の私事化」の主張は魅力的・説得的か？	126
7	おわりに	130
08	相続制度は廃止すべきか？	135
1	はじめに	135
2	相続制度の存在理由	137

3	平等主義による相続制度廃止論	140
4	権利の性質による相続制度廃止論	145
09	児童手当は独身者差別か？	152
1	2つの子ども問題	152
2	児童手当	153
3	善に対する正義の優位	156
4	児童手当は中立的か？	161
5	発展的問題	163
10	年金は世代間の助け合いであるべきか？	168
1	はじめに	168
2	世代間正義のための公的年金	172
3	福利の時間的範囲	175
4	まとめ	181
第Ⅲ部 法と国家		
11	裁判員制度は廃止すべきか？	186
1	裁判員制度をめぐる問題状況	186
2	裁判員制度を考えるために：法哲学からの視点	188
3	裁判員制度は廃止すべきか	191
4	裁判員制度を廃止すべきではない	196
5	裁判員制度は改革されなければならない	199
12	女性議席を設けるべきか？	202
1	はじめに	202
2	日本における女性の過少代表と諸外国の多様なクォータ制	203
3	女性の過少代表と議会の正統性	204
4	女性の過少代表と議会の判断の歪み	207
5	ポジティブ・アクションとしてのクォータ制	211
6	おわりに	215

13 悪法に従う義務はあるか？ ————— 218

- 1 はじめに…………… 218
- 2 悪法は法ではない：自然法論の「悪法」論…………… 221
- 3 悪法も法だが、従うべきではない：法実証主義の悪法論…………… 224
- 4 悪法にも従うべきである：遵法義務の根拠…………… 228
- 5 悪法への不服従をどう考えるべきか？…………… 230

14 国家は廃止すべきか？ ————— 235

- 1 「国家は要らない」と言いたくなる時…………… 235
- 2 国家不要論に関連する法哲学上の諸論点…………… 237
- 3 自由は秩序を生み出すのか？…………… 239
- 4 国家は要るのか、要らないのか？…………… 243

15 国際社会に法は存在するか？ ————— 255

- 1 なぜこの問いか…………… 255
- 2 問いの意味…………… 256
- 3 制裁への着目…………… 258
- 4 内的視点…………… 262
- 5 国内法は法の典型例か…………… 264
- 6 価値負荷性…………… 268
- 7 結 論…………… 271

索 引

執筆者紹介